



学校だより

令和5年 6月30日
練馬区立北町西小学校
校長 小松田 早苗
第722号

北西小 HP

URL



校歌に込めた願い

校長 小松田 早苗

本校は昭和33年に開校し、今年度は開校65周年にあたります。

6月17日の開校記念日前後には、学校の歴史に触れる機会をもちたいと思い、今年は朝会で「校歌」について話しました。運動会では、1年生も歌詞をしっかりと覚え、元気よく歌うことができました。

記録によれば、北町西小学校の校歌は、開校5周年記念式典においてお披露目されたそうです。落成したばかりの体育館兼講堂で歌われた校歌を、参加された方はどんな思いでお聴きになったのでしょうか。校舎一棟で始まった開校からの5年間は、校舎の増築、校庭の整地、垣根や池、岩石園の造成など、施設面からよりよい教育環境を整えていく北町西小学校の“建設時代”であったとのことです。学校に通う子供たちのことを第一に考え、惜しみない協力で支えてくださった地域や保護者の方々、教職員の熱意やご苦労が忍ばれます。

校 歌

作詞 小林 純一

作曲 平井康三郎

一

さわやかな 檜の緑 そよがせる
風よ 明るい 朝の風
さあ 歌声高く ひびかせて
通おう けさも ほがらかに
北町 おお 北町西小学校

二

揺るぎなく 遥かな空に そびえ立つ
山よ けだかい 富士の山
さあ 希望の瞳 かがやかし
学ぼう きょうも 新しく
北町 おお 北町西小学校

三

清らかな 菜種の花で かたどった
星よ 記章の 北の星
さあ 理想を高く 美しく
進もう いつも 誇らしく
北町 おお 北町西小学校

校歌の歌詞を見てみましょう。「さあ」に続く後半はそれぞれ、こんな子供であってほしい、こんな人に成長してもらいたいという願いが込められた言葉です。笑顔で楽しそうに学校に向かい、友達と共に一つ、また一つと新たな学びに心躍らせ、自信をもって自分の道を歩んでいく——。昔も今も、子供たちを見守る人々が願うことは変わらないのだと校歌を歌う度に感じます。

では、子供たちはどんな願いをもっていたのでしょうか。30周年の記念誌には、「こんな学校にしたい」というページがありました。子供らしい夢の学校が30年以上を経て、既に現実となっていることもあります。

- ・学校にエレベーターがあるといいなあ。
- ・屋上にアスレチックがある。
- ・宇宙へ遠足に行けるといいな。
- ・校庭に東京ドームのような屋根があり、雨の日でも自由に遊べ、休み時間がもっと長くなるといい。
- ・自分で時間割を決めたいな。
- ・私の未来の学校は、パソコンで授業をやることです。
- ・「おはよう」「じゃあね」と学校中のみんなが声を掛け合い挨拶が飛び交う学校にしたい。

校歌に込められた願いを、今の時代を生きる子供たちに合った形で実現するため、歩みを止めることなく70周年、そしてその先へとつなげていきたいと思います。

7月の行事予定

日	月	火	水	木	金	土
2	3 朝	4 学	5 短	6 集	7 学	8 短
	安全指導点検 ALT	4年火曜日6時間授業開始 ALT	ALT 委員会④(P6)	集会委員会(朝meet)	3年全員面談(3-3)	学校公開
9	10 朝	11 学	12 短	13 学	14 学	15
	診断テスト(4~6) ALT	ALT 避難訓練(中休み)	ALT		3年全員面談(3-3) 着衣泳(56)	
16	17	18 朝	19 短	20 式	21	22
	海の日	豊かな心を育む教室(1~6) 体育館10:30~11:30	給食終	終業式	夏本休業始	
23	24	25	26	27	28	29
	夏季水泳① 夏季補充教室① リトルディーチャー①	夏季水泳② 夏季補充教室② リトルディーチャー②	夏季水泳③ 夏季補充教室③ リトルディーチャー③	夏季水泳④ 夏季補充教室④ リトルディーチャー④	夏季水泳⑤ 夏季補充教室⑤ リトルディーチャー⑤	
30	31					

朝…朝会 学…朝学習 体…体育朝会 短…短縮時程 ロング中休み…朝学習なし、3校時から通常時程
()内の数字は該当学年

日付下部の数字は左から順に第1学年から第6学年までの授業時間

※クラブ・委員会のある日は、授業は5時間ですが、実質6時間目終了後と同等の下校時刻になります。

〈スクールカウンセラー 来校予定〉

7月3日(月) 10日(月)

※お問い合わせ スクールカウンセラ一直通番号 TEL 090-7196-9537

令和5年度 校内研究 研究主題

自らの思いをもち、表現できる児童の育成

～書くことの指導を通して～

研究推進主任

文章を書くことは好きですか？文章を書くことは得意ですか？

今年度、本校では昨年度の校内研究の成果を踏まえ、より今日的で、本校の児童の実態に即した研究を進めていくために、書くことに習熟することで、より思考力・判断力・表現力が伸びるだろうという仮説を立てて研究を進めています。

本校の全国学力調査の結果を見ると、東京都の平均を全体的に上回っています。それでも、より詳しく調査結果を分析すると、知識および技能に比べて、思考力・判断力・表現力が課題となっていることが分かります。また、問題形式別にみてみると、選択式や短答式に比べて、記述式の問題を苦手にしている児童が多いようです。これらの実践から、「自分の考えを文章で表現する力」を伸ばすことが、本校の児童に求められていると言えるでしょう。

冒頭の質問に戻ります。書くことが好きな人とそうでない人、書くことが得意な人とそうでない人、これらを分けているのはどんなことなのでしょうか。児童が「好き」や「できる」と思える瞬間はどんなときなのか。反対に何に躊躇自分の考えをうまく表現できないのか。それを調べることが研究のスタートです。児童の「得意」・「好き」をさらに伸ばし、つまずきや困っていることを解決する手立てを考えて実践するのが我々教員の仕事です。

本年度の校内研究を通して、「書きたい、書けそう、書けた」という経験を豊富に積み重ね、自らの思いを自分の言葉で表現できる児童を育していくことを目指して、教員一丸となって取り組んでいきます。